

## 授業実践

体育祭が終わり、また授業が本格的にスタートしました。

子どもたちは少しずつ学習の進め方にも慣れてきている様子です。徐々に理解度の違いによって進度に差が生まれてきました。意味が分かるまでじっくり学習を進める生徒や、必要なものを部分的に復習しながら進める生徒など、自分に合った方法で学習している生徒が増えてきたためです。中には落書きをしてみたり、授業に関係のない話をしてみたり、友達の答えを丸写しするだけで終わったりする生徒もいます。黒板の前に立つ時間が減ったこともあり、そういった生徒を見つけやすくなったような気がします。ここで教師が何も手を打たなければ「放任」です。本人と、場合によっては全体に、丁寧に話をします。



本人にとって最も理解のしやすいスピードで学習を続けたときに、その進度の差をどうするか。これは多くの先生方が悩まれることではないでしょうか。私は、学習を先へ進めたい生徒が立ち止まらないように常に学習できるツールは用意しています。学習がうまく進んでいない生徒には、同じことで悩んでいる生徒と一緒に考えるように促したり、学習が進んでいる生徒にサポートに行ってもらったりと、生徒同士で学び合うように促しています。そうしながら、私自身も困っている生徒の手助けに回っています。しかし、これを私がすべて指示してしまっているうちは、自分たちで学んでいるとは言えないと思います。



「個別最適な学び」と謳いながら、「孤立した学び」になってしまわないように、授業内外で集団づくりをしていく必要があると実感しました。また、もっと根本の「自分たちで分からないところを分かるようにしていく」ことの大切さや、「クラス全員でできるようになる」ことの大切さを、子どもたちに伝えていかなければならないと思いました。

# 選書会スタート!

今年度も「日本で一番子どもたちが本を読むまちをつくる会」のご寄付によって実施されている選書会がスタートしました。



たくさんの本に囲まれて、子どもたちは選書会の会場に入ったときから目を輝かせていました。小学1年生にとっては初めての選書会でしたが、金高堂の西村さんの説明をしっかりと聞いて、本を選ぶことができていました。

好きな本めがけてまっしぐらで、すぐに本を決め終わる児童もいれば、1時間かけてじっくり選ぶ児童もありました。表紙に心惹かれて手に取る児童、自分の好きなテーマの図鑑を見つけて心躍らせる児童、数人で頭を寄せ合って1冊の本を読む児童など、それぞれの楽しみ方で本に触れあっていたと思います。



須崎中学校では、竹内教育長からも次のように話がありました。「この選書会は寄付によって行われていますが、1人1冊いただけるというのはすごいことです。…中略…本を読むことで皆さんは少なからず影響を受けると思います。それが良い変化のきっかけになることを願っています。」

インターネットは「自分が求める情報にアクセスする」ことに長けています。インターネットを活用することで、調べたいものは容易に調べられます。AIは使用者の日々のアクセスを分析して、その人に最適化された書籍をおススメとして提示してくるでしょう。一方で、選書会では、自分の興味関心にかかわらず、多種多様な本が用意されています。これまで全く興味を持たなかった物に心奪われることがあるかもしれません。物語の主人公に自分を重ねることで、感じたことのない感情に触れることもあるかもしれません。残り数校となりましたが、選書会の時間を大切にいただけたらと思います。

